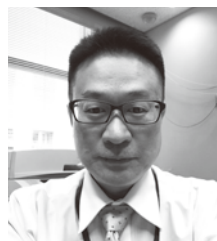


私にも
言わせて!
第66回

物理学専攻のキャリアを武器に
「公衆衛生医」として働く



池袋保健所健康推進課
健康推進担当係長(医務)
松本 星保

神戸大学大学院物理学修士課程卒業後、平成22年大阪大学医学部卒業。26年1月神戸市須磨区役所に行政医師として勤務、29年10月より現職。

連載名のよつな「若手」というほどこでもなく、「期待」という言葉にもあてはまらない私ですが、ご縁あって原稿を書かせていただくことになりました。読者の方に臨床医の方は少ないかもしれませんが、ご覧になられた臨床医の方々に、いくらか公衆衛生に興味をもっていただけるよう、公衆衛生の一部でもお伝えできたらと思います。

公衆衛生の印象

初めまして。平成29年10月から東京都豊島区にある池袋保健所健康推進担当係長(医務)を務めています。松本星保と申します。紆余曲折を経て平成22年大阪大学医学部を卒業し、平成26年1月から公衆衛生に従事しています。さまざまな職種の方とかかわりながら、楽しく仕事をさせていただいております。

私は医療従事者以外の方とも仕事をしたいと思っていましたので、いろいろな方々とかかわりながら物理学と医学の二つを生かせる職場はないかと探していたところ、公衆衛生

にたどり着きました。しかしいざ、

公衆衛生の職場に飛び込んでみると、医療従事者以外の方と一緒に仕事ができるという単純なものではなく、医療従事者以外の方とのコミュニケーションがたいへん重要な職場でした。課長や係長などの役職で上下関係が決まります。上司が事務系の方のときもあります。医師免許を有することに責任をもたなければいけません。医師免許を有することが医師免許をもたない方への優位性になるわけではありません。医師免許をもつ一人の人間として、さまざまな方と上手くかわれることが、公衆衛生に携わる者に必要とされるのではないかと思います。

いました。

そしてもう一つ、公衆衛生の特徴と考えることがあります。私は元々物理学を専攻しており、医師としてのキャリアはまだ10年もありません。同年代の医師と比較して医師のキャリアが短い分、臨床の現場では寂しさを抱くことが多々ありました(私の不勉強もありましたが)。また、自分のキャリアである物理学が生きることはほとんどありませんでしたが、しかし公衆衛生という分野は、物理学を専攻していた自分のキャリアを生かそうと思えば生かすことができ、同年代の医師とのキャリアのギャップをいくらか埋めることができました。このことは私のような医学以外を経験し紆余曲折を経て医師になられた方に、とても励みになると思います。むしろ、さまざまな経験を積んでいるからこそできることもあり

公衆衛生に飛び込んでから

最初の職場は神戸市でした。公衆衛生について具体的にどんなことをするのだろうかというドキドキしながらの入庁でした。入庁したところ、主にしていた仕事は、感染症対応(特に感染性胃腸炎が発生した施設に保健師と訪問)、保育施設や高齢者施設感染症担当職員への感染症に関する講演、3歳児健診などでした。

感染症対応は、臨床のときとは

ずいぶんと考え方を変えなければならぬことに戸惑った記憶があります。臨床現場では患者の治癒が目標でしたが、公衆衛生では感染症の拡大を防止することが目標になります。疾患ごとの潜伏期や感染性期間、施設の特徴を考慮し対策を講ずるのですが、感染経路の特定などは物理学を専攻していたときの感覚に近く、そのとき、自分の物理学のキャリアが無駄ではなかったと思います。うれしかったことを覚えています。また、事務系の方々のご意見は、視点が違いとても新鮮でした。

神戸市でのキャリアは3年9か月だったのですが、途中から保健センターでの業務だけでなく、神戸市保健所での予防衛生課感染症係で医師担当としての兼務が加わりました。保健センターの上部組織となる保健所では、神戸市9区(総人口約150万人)の情報が入り、当然感染症の情報も入ります。

神戸市の感染症対応の独自の取り組みとして「神戸モデル」というものがあり、その中に早期探知地域連携システムというものがあります。

感染症が発生した施設(基本的には1週間のうちに2名以上感染者が発生した施設)が、その施設の所在区の保健センターにFAXなどで連絡票という形で届け出るというもの

です。届け出の提出は義務ではないのですが、私が在職していたときで1年間に約250ケースの感染症の届け出がありました。

ここでの1ケースは、新規発症者が最初に出た日から、最初の新規発症者と同一の感染源と推定される新規発症者が最後に出た日までの一連の経過を指します。私はそのデータの整理・解析の仕事を担当しました。

大きい統計データを扱うにあたり、統計学の知識や、エクセルでのプログラミングの知識などの必要性を感じ、悪戦苦闘しながら学習したのですが、私の物理学でのキャリアがいちばん生かされ、公衆衛生に来てよかったと再確認したときでした。同時に、自分の中に一つの目標ができたときでもありました。

神戸市時代を振り返ると、さまざまな方との出会いがありました。上司と同僚に恵まれ、常識のない私にたくさんのことを教えていただ

きました。技術職以外の方にも、

飲み会に誘ってもらったりと、たいへんお世話になりました。公衆衛生と出合わなければ、このような職場を知ることにはなかったと思います。

そして、池袋保健所
今後の目標とまとめ

最初に書きましたように、平成29年10月から東京都豊島区の池袋保健所に入庁しました。豊島区は、人口約30万人の特別区で、国際アートカルチャー都市としまを謳っています。そして私が所属する池袋保健所は、保健所と保健センターの業務が融合した機能をもっています。豊島区に入庁してから2か月が経過したばかりで、まだまだ組織のことや地区の特性などわからないことだらけですが、親切に教えてくださいださる上司と同僚に恵まれ、とても快適に仕事をさせていただいています。

豊島区の結核の罹患率(平成28年34・9%)は高く、その中で外国人の占める割合(平成28年36・9%)が多いことから、外国人の結核対策を考えていかなければならないなどの喫緊の課題があり、現在

悪戦苦闘しています。

今後の目標です。公衆衛生という仕事は多岐にわたると思いますが、その中でも、大規模統計データの解析による効率のよい公衆衛生対策を講ずることができればと考えています。たとえば、がん対策での費用対効果の解析、感染症発生時での感染拡大リスク要因の分析、もつと身近な例では、吐物の散乱面積のシミュレーションなどです。コンピュータシミュレーション技術や統計学を用いた、新しい公衆衛生の切り口を見い出せたらと思います。

私なりに公衆衛生をまとめると、公衆衛生で円滑に業務を遂行するには、多職種の方々のコミュニケーションが重要になります。また、医学以外の分野の出身者が培った医学以外の専門性を、生かせる職場だと思っています。勤務時間的にも、医師のQOLが保ちやすい分野です。自分の時間が多くもてるので、知識の習得や自分の興味のある分野の研究がやりやすいのです。

私はあくまで一例ですが、公衆衛生にご興味をもたれる医師の方がおられることを祈って、文章を終わりにしたいと思います。